科目名	会計監査論Ｂ　　Auditing B						
科目担当者	出山 実　　IDEYAMA Minoru						
単位数	２	配当年次	３年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	経営学部・経営学科［専門教育科目　専門科目］ 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	会計監査は、財務諸表が適正に作成されたかどうかチェックするための仕組みです。公開会社では、監査役と第三者である公認会計士（監査法人）による会計監査が行われます。一方で、会計不正や粉飾決算のニュースが後を絶たず、会計監査の実効性が問われています。監査は、株主や投資家、金融機関等への適切な情報開示の要諦である元来の目的に常に立ち返らなければなりません。本講義では、監査プロセスについて深く学びます。 講義の進め方は、学生による報告と討議形式で進めていきます。毎回、担当者を決めて、該当分野を報告してもらいます。						
授業の到達目標	①財務諸表監査のプロセスを深く理解する。 ②会計不正に関する諸問題を的確に把握できる。						

授業計画・内容		
	1	オリエンテーション
	2	監査のプロセス＜1＞：基本的なプロセス
	3	監査のプロセス＜2＞：監査のアプローチ
	4	監査のプロセス＜3＞：監査の実施プロセス
	5	監査のプロセス＜4＞：監査の実施方法
	6	監査のプロセス＜5＞：経営者確認書と監査調書
	7	監査結果の報告＜1＞：監査報告書
	8	監査結果の報告＜2＞：除外事項と監査意見
	9	監査結果の報告＜3＞：継続企業の前提と監査報告書
	10	監査の信頼性を向上する取り組み＜1＞：日本版 SOX 法による監査改革
	11	監査の信頼性を向上する取り組み＜2＞：四半期財務諸表と四半期レビュー
	12	健全な社会と監査＜1＞：非営利組織体に関する監査
	13	健全な社会と監査＜2＞：行政機関に関する監査
	14	健全な社会と監査＜3＞：政府関連組織に関する監査
	15	まとめ

授業外学修 (事前学修)	報告担当者：担当する箇所のプレゼンテーションを作成する（3 時間程度)。 受講者：教科書の対象範囲を読んでくる（1 時間程度)。
授業外学修 (事後学修)	講義で提示した関連資料を要約してくる（3 時間程度）。

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	担当箇所の報告 定期試験	30% 70%	①② ①②

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	盛田 良久 編著『はじめてまなぶ監査論〈第 2 版〉』中央経済社
参考文献	
その他	＜どのような学生の受講が望ましいか＞ ・日商簿記 2 級レベルの知識を持った学生 ・会計監査の知識を身につけたい学生 ・将来、経理・財務担当者、内部監査人になりたい学生 ＜あらかじめ受講して欲しい科目＞ 経営分析、財務諸表論、管理会計論、原価計算論 ＜併行して受講して欲しい科目＞ 税務会計論、環境会計学